

# DoKoネット

—同志社大学工学部同窓会報—  
第4号(2002)



# What's New!

2002年度第15回工学部同窓会リュニオン

2002年11月3日(日)

第1部 13:00~15:00 総会 今出川キャンパス

(京都市上京区烏丸今出川)

第2部 15:00~ 卒業年グループリュニオン

ー卒業年グループリュニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さいー

2002年度のリュニオン第2部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年(S22, 27, 32, 37, 42, 47, 52, 57, 62, H4, 9年卒業)の方々には特別に企画いただく予定となっております。

詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページを開設しています

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>

(URLのはじめはwww1ですのでご注意ください)

このページは工学部からのお知らせと共に工学部同窓会リュニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

本同窓会報”DoKoネット”第5号は2003年2月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

# 同窓会への夢

同志社大学工学部同窓会会長  
坂口 一彦

同志社大学には、卒業生の組織として校友会と各学部 に同窓会があります。本工学部も創設以来、工学会が同窓会の機能を有し、大学と卒業生との橋渡しの役目を果たして半世紀になります。

ご承知の通り、6年前に同窓会の組織が生まれ、工学会の背中に乗っかっている状態が続いています。

一日も早く、工学会は在学生の組織、同窓会は卒業生の組織といった母体の確立を願っています。同窓会に託す、私の夢をに支部を、また海外にも支部を、といったものです。同窓会の基盤を積み上げ、将来、他に誇れる会としたいものです。

二つ目は、最近、院生を中心とした多くの学生が国際会議などに出席し、その研究成果を発表しています。また、国内での諸学会などにも非常に多くの学生が講演発表を行っている現状です。大学の活動を社会に向けてアピールするためにも積極的な参加を呼びかけています。このための渡航費、参加費などの補助に同窓会の、ご協力が必要です。

三つ目は、卒業時に成績、人物ともに優秀な学生を同窓会として表彰する制度です。いずれも、在学生と卒業生との架け橋となる事業だと思えます。

近い将来、工学部同窓会の礎となる財政基盤を確立させ、夢を実現したいものです。

## 第 14 回工学部同窓会リユニオン報告

同志社大学では、一昨年創立 125 周年事業として卒業生の集いを、今年度も 11 月 3 日にホームカミングデーを開催いたしました。工学部同窓会もそれに併せてリユニオンを開催することとなりました。(リユニオンは毎年 EVE 前の土曜日に開催することとしておりましたが、予定を変更し大学行事と歩調を合わせて同窓会を開催いたしました。) ご案内は、卒業後 5 年毎の節目になられる昭和 26 年、31 年、36 年、41 年、46 年、51 年、56 年、61 年、平成 3 年、平成 8 年の卒業生の皆様にご案内させていただきました。卒業年度毎に幹事をお選びいただきお世話いただきましたが、十分な準備時間を確保できなかったこともあり、第 1 部総会に引き続き第 2 部の 5N 周年記念同窓会卒業年グループリユニオンを企画していただきましたのは 1 グループのみでした。同窓会ニュースは、ホームページを通してご案内させていただきますので、来年度のご企画を事務局へご連絡下されれば幸いです。

本年度の総会は約 40 名の参加を得て開催。第 1 部の千田衛工学部長の挨拶で始まり、坂口一彦会長の議長により、昨年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画等の議事が承認されました。引き続き、ホームカミングデーに参加いただき、千宗室さんの講演「同志社と私」に参加する方々や、ハリス理化学館にて展示されております工学部の歴史を見学する方々がおられました。久しぶりに旧交を暖める卒業生皆様の笑顔が印象的な催しとなりました。

## 21世紀に成長を，工学部同窓会

1957年工業化学科卒 山下正通  
次期工学部同窓会長

「工学部同窓会」と「工学会」の二足の草鞋をはく(being engaged in two trade at the same time)状態から脱皮(break from the convention)するため、京田辺キャンパス移転後に歴代の会長がスタッフ共々財政基盤を確立すべく懸命な努力をしてきました。一方、10年間にわたり同志社大学と卒業生とを結ぶ2-WAYコミュニケーションの役割を果たされた“Wild Rover”誌は2002年2月をもって最終号(Vol.21)とされ、その後は在校生対象の「同志社大学通信 ONE PURPOSE」(現在130号を数え、年4回、4、6、10、12月発行)に発展的に統合されます。この自己撞着的情勢を踏まえて、伝統と誇りある同志社理化学館のレリーフ"18 Science 94"のもとで人生を享受し巢立たれた加藤与五郎先生はじめ多くの先達の「碩学」を顧みて、今後の「工学部同窓会」の在り方を皆様と共に真摯に検討したいと思います。

情報通信技術(IT)時代の千年天国にある電子化された天声人語 [朝日新聞]によると、“大学生10人のうち10人が「碩学(せきがく)」などの難しい言葉を知らなかった(平成13年8月22日付け)”という現代IT学生気質(かたぎ)の御時世であることが知らされて愕然としました。再度「碩学」について“自分で調べることをすれば色々なことが見えてくる(同9月4日付け)”という見解が紹介されていました。ゆっくり急いで、電子古典\*を紐解くと、《限りある財をもちて、限りなき願ひに随ふ事、得べからず。…(「徒然草」第217段)》とあります。十四世紀の兼好法師が予想したわけではありませんが、二十一世紀初頭の私たちは、そのことを思い知らされています。つまり、科学技術に支えられて膨らんできた人間の「限りなき願ひ」が、地球の「限りある財」をむしばんでいます。それが、気候変動の懸念や生態系の危機など、今日の地球環境問題

の本質です。

“出盛の誉れ excel (surpass) one's master (teacher)”という言葉の意味は[より優れた弟子であれば努力すれば師匠を超えることができる]ということです。その由来は性悪説を唱えた笥子(笥卿)の言葉《学は以て已(や)むべからず。青は藍(あい)より出でて藍より青く、氷(こおり)は水これを為して、水より寒(つめた)し》[学問というものは止まる事がないものである。青い色は藍(藍玉と呼ばれる染色の材料)から作り出すが、元の藍よりも鮮やかな青色をしている。氷は水から出来るものだが、水よりも冷たいものだ]から引用されたものです。この譬えから、「藍」が師匠として、そこから作り出された「青」という弟子は元の師匠の「藍」よりも優れているという意味として“出藍の誉れ”という言葉が使われるようになったということです。そこで今後とも「工学部同窓会」からも山崎舜平氏(昭和40年電気工学科卒、現半導体エネルギー研究所代表取締役社長)のような幾多の“出藍の誉れ”の輩出を期待したいものです。

夢と希望を与えた第35代米国大統領ジョン・F・ケネディが、日本で最も尊敬する政治家として、米沢藩の構造改革を遂行した上杉治憲(鷹山)藩主を礼讃しました。《なせば成るなさねば成らぬ何事も成らぬは人のなさぬなりけり》(鷹山)。

同志社大学 工学部教授

\*ネットワークによって参照できる。たとえば「徒然草」等の古典を指す。

## 工学部同窓会活動と第15回工学部同窓会リユニオンのご案内

同窓会幹事会

工学部同窓会活動は同窓生と同志社大学工学部の双方の発展に貢献することを目的としておりますが、今のところ充分その目的が果たし得ない状況です。現在、組織的、資金的な問題や運営上の課題を克服するべく、検討がなされております。第一に、会費収入で必要な経費を賄うことができず、本 DoKo ネットも全会員へ配布できない現状にあります。

1992年3月;同窓会会則案を作成、「工学部同窓会設立準備委員会」発足、1994年12月;同志社工学会評議員会において同窓会設立が承認されました。その後、1996年3月に第1回工学部同窓会幹事会、第9回リユニオン(工学会と同窓会との共催)を開催し、2001年11月同窓会主催の第14回リユニオンを開催いたしました。現坂口会長が会費収入の安定化を計るため、工学会との連携のもと、在学生の卒業年次に同窓会入会金の代理徴収をお願いする方向で話し合いが進んでおり、2003年度入学生が卒業する年の2006年4月に入会金を納入して頂くことで、財政的基盤を確立することになっております。それまでの4年間の同窓会会誌発行費・郵送費を工学会が同窓会へ補助するように話し合いが進んでおります。工学会は在学生、同窓会は卒業生を会員として活動対象を明確に分けると同時に、以前の工学会と同様在学生と卒業生との連携を図り、年に2回程度の合同の懇談会を開催するなどして、連絡を密に取りながら運営していくことになっております。

卒業生の皆様がキャンパスに集い、クラスメートとの再会と出会いの中で、いっそう母校とのきずなを深めていただきたいと願っております。本年も同志社大学では、「ホームカミングデー」が今出川キャンパスを中心に11月3日(日)に卒業生歓迎のイベントを企画しており、工学部同窓会も同日リユニオン開催を予定しております。同窓会と致しましては、特に卒業5N周年の皆様には案内状送付用宛名ラベル印刷など、事務局でお世話させていただきます。また、当日ゼミ・クラブ等の同窓会には教室をご利用いただけますので、工学部同窓会事務局へご連絡くだされば教室予約等のご案内をさせていただきます。ホームカミングデーでは、毎年興味ある企画が計画されておりますので、お楽しみいただきたく思います。

同志社ホームカミングデーの情報：<http://www.doshisha.ac.jp/sotsumu/hcd2001.html>

工学部同窓会情報：<http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>

御願

以下の会費納入方法にあります「UCカード集金代行」にてお申し込みいただければ幸いです。現在、同窓会立ち上げの時期でもあり、是非卒業生の皆様方のご理解、御協力をお願い申し上げます。

### 工学部同窓会年会費 2,000 円納入方法

1. UC カード集金代行 同封の預金口座振替依頼書に必用事項を記入し返送ください。
2. 郵便振替 00990-0-151193：同志社大学工学部同窓会
3. VISA, Master Card 同封の Fax 用紙にてお手続き下さい。
4. 銀行振込 南都銀行京田辺支店(店番 740) 普通預金口座 218806  
口座名 同志社大学工学部同窓会 代表者 坂口一彦

★従来の同志社工学会の年会費とは異なります。

# 学科紹介

## 知識工学科

知識工学科は、1994年4月に設置されて以来、8年が経過しました。1998年に大学院知識工学専攻博士前期課程、2000年に知識工学専攻博士後期課程が設置され、学科・大学院合わせて充実した体制ができあがっています。また、2000年度には、文部科学省の補助金を受けて、「知能情報科学とその応用に関する研究」なる研究プロジェクトを立ち上げ、これを実施する施設として、「知能情報センター」(延べ床面積4000平方メートル)を建設しました。2001年4月、知識工学科に129名の新入生を迎え、知識工学専攻前期課程に41人が進学し、そして後期課程に3人が進学しました。知識工学科の総人数は489人、博士前期課程の総人数は79人、博士後期課程の総人数は7人です。2002年3月に知識工学科生108人が卒業し、前期課程の院生38人が課程を修了し、後期課程の1人に博士(工学)の学位が授与されました。卒業あるいは修

了した学生諸君は全員就職先あるいは大学院進学が決まっております。この8年の間、学術の動向や学生諸君の意向を踏まえて、学科のカリキュラムをより良くなるよう改訂を行いました。これからも時代の変化に対応できるカリキュラム編成に努力し、知識工学科・知識工学専攻の力量を増進させます。知識工学科は次に挙げる7研究室と13人の教員によって運営されています。情報数理工学研究室(渡辺陽一郎教授、原田等講師)、知覚・認知機構研究室(力丸裕教授)、情報システム学研究室(三森定道教授、芳賀博英助教授)、知識情報処理研究室(河岡司教授、渡部広一助教授)、知的機構研究室(柳田益造教授、坂東敏博助教授)、知的システムデザイン研究室(三木光範教授、廣安知之助講師)、数理モデル研究室(川崎廣吉教授、岡崎龍太郎講師)。

教務主任 渡邊 陽一郎

## 電気工学科・電子工学科

2001年度には例年と同様、電気・電子両学科あわせて約300名が、大学院博士課程(前期)電気工学専攻では、80名を超える新入生を迎えました。また、各会社から高い評価をいただき、この頃の厳しい環境の中就職も順調に決定しました。これも、卒業生皆様のご活躍の賜物と感謝致しております。今後とも、皆様のご活躍をお祈り致しますと共に、より一層のご協力をお願い申し上げます。なお、2002年度の就職委員は2001年度に引き続き辻教授が担当致します。

2001年9月末に 응용数学研究室での卒論指導を戴いた梶原健司助教授が九州大学へ転出されました。たいへん教育熱心な先生をお送りしなければならなかったことは誠に残念ですが、更なるご活躍をお祈りしたいと思います。なお、来年度4月より、新たなスタッフをお迎えする予定です。また、本年度末には、長きにわたり同志社の保健体

育教育、特にフェンシング教育に熱心に取り組んでこられた田淵和彦教授がご退職になります。この場をお借りして、深く御礼を申し上げます。

2001年11月には、我々の学科としてはじめてとなります、第三者評価を受けました。OBの方1名を含む2名の評価委員の方から、電気・電気工学科の現状に対する貴重なご意見を頂戴致しました。教員間のコミュニケーションをさらに深め、教員の相互批判に基づく教育・研究の改革についてご指摘を戴きました。我が学科は元来風通しのよい組織であると思っておりましたが、更なる改善を求められ、外部評価の重要性を再認識致しました。今後も、電気・電子工学科をより良いものとするため、卒業生皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ下さいませよう、よろしく願い申し上げます

教務主任 長岡 直人

## 機械システム工学科・エネルギー機械工学科

機械系学科では、現在、学生在籍者総数は 1328 名、その内訳は、機械システム工学科、1年生 121 名、2年生 168 名、3年生 152 名、4年生 248 名、総数 689 名であり、エネルギー機械工学科は1年生 141 名、2年生 163 名、3年生 122 名、4年生 213 名総数 639 名です。一方大学院(工学研究科機械工学専攻博士課程)は総数 207 名で、そのうち前期課程(修士)は1年生 93 名、2年生 101 名、計 194 名であり、後期課程(博士)は 13 名が在籍しています。また、2000年度実施された、新カリキュラム、新研究室体制により、効果的で質の高い教育・研究への取り組みがなされています。

現在、学生たちは次の研究室にて活発な研究を行っています。機械要素・トライボロジー研究室(坂口一彦教授・小林眞造教授・松岡敬教授)、構造工学研究室(藤井透

教授・大窪和也専任講師)、金属材料科学研究室(御牧拓郎教授・宮本博之専任講師)、応用材料工学研究室(今井田豊教授・長谷部忠司助教授)、成形加工研究室(片山博生教授・青山栄一教授)、伝熱工学研究室(千田衛教授・稲岡恭二助教授)、噴霧・燃焼工学研究室(藤本元教授・千田二郎教授)、流体力学研究室(平田勝哉助教授・舟木治郎助教授)、流体工学研究室(水島二郎教授・山口博司教授)、制御工学研究室(原敬教授・横川隆一助教授)、機械力学研究室(小泉孝之教授・辻内伸好助教授)、物理学研究室(高岡正憲助教授)、数理工学研究室(浦部治一郎教授・押目頼昌教授)の 13 研究室です。このうち、高岡先生は2001年4月に着任されました。

教務主任 青山 栄一

---

## 数理環境科学専攻

本専攻は、工学研究科修士課程の独立専攻(学部学科を基礎としない専攻)として 1998 年度に発足しました。学部で習得した諸知識の上に、環境問題に取り組むために必要な数理科学や地球科学・生命科学・健康科学の知識を習得し、環境問題に対応できる高度な技術者や研究者の要請を目指しています。

2000 年度生は 18 名、2001 年度生は 19 名が在籍しています。新しい専攻であり、工学研究科他専攻の協力を得て、これら学生の約半数は他専攻の先生方の指導のもとに、環境関連テーマで修士論文の研究に取り組んでいます。また、環境問題は人文・社会科学とも深く関連していますので、文科系学部の卒業生・社会人も受け入れております。このように本専攻はきわめてユニークな専攻であります。

まだ発足したばかりの新しい専攻であり、知名度も低い

ので、就職活動には困難な側面もありましたが、他専攻の就職委員の協力に助けられて、これまでほぼ 100%の就職率を達成しております。専攻のユニークさを反映して、一流の大企業から新生のベンチャー企業まで、情報・電気・機械・薬品・食品関係から天然ガス開発・技術者派遣業・SE まで、きわめて多彩な企業への就職が内定している状況です。

現在以下の 8 名の専任教員が、専攻の教育・研究を担当し、修士論文の研究指導をしています。

林 隆夫 教授、林田 明 教授、松田 正文 教授、西邨 顕達 教授、押目 頼昌 教授、鈴木 博之 教授、山下 正和 教授、横山 卓雄 教授

専攻主任 鈴木 博之

# 学科紹介

## 機能分子工学科・物質化学工学科

2001年度の化学系学科の在籍者数は、機能分子工学科 630名(卒論生 159名)、物質化学工学科 562名(卒論生 119名)です。また、約30%が大学院に進学します。工学研究科・工業化学専攻には、博士前期課程 144名、博士後期課程 9名が在籍して研究に励んでいます。本年度の就職状況は、卒業生が活躍されている実績のおかげで、ほとんどが希望の業種につき高い就職率を保っています。特に大学院修了者への社会的ニーズは高く、多くは研究分野に内定しています。

研究室名・担当者は以下のようになります。2001年4月に5名の先生方が助教授から教授に昇進されました。

<機能分子工学科> 電気化学研究室(山下正通教授、田坂明政教授、竹村英昭実験講師)、高分子化学研究室(丹羽政三教授、東 信行教授、松本孝広実験講師)、有機化学研究室(山下正和教授、田中義文助手、大西慶一郎実験講師)、無機合成化学研究室(山口 修教授、廣田 健教授、芳仲 捷実験講師)、有機合成化学研究室(古川 功教授、太田哲男教授)、機能有機化学研

究室(加納航治教授、小寺政人教授)、物理化学研究室(上野正勝教授、伊吹和泰助教授、土橋倫昭実験講師)、数理解析研究室(溝畑 潔助教授)

<物質化学工学科> 移動現象研究室(田中幹也教授、森 康維教授、越村寛一実験講師)、熱プロセス工学研究室(立脇徳松教授)、材料システム研究室(高野 頌教授、伊藤正行教授、仁科修治実験講師)、計測分離工学研究室(中島理一郎教授、塚越一彦教授、田村 隆実験講師)、粉体工学研究室(日高重助教授、白川善幸講師、下坂淳子実験講師)、生物化学工学研究室(近藤和生教授、松本道明教授)、数理解析研究室(堀内龍太郎教授)

なお、2002年3月末をもちまして、古川 功教授、山下正通教授、田中幹也教授が停年退職されます。先生方の永年の御功績に対して、化学系の教員一同、心より厚く御礼申し上げます。

教務主任 近藤 和生

2003年度工学部就職委員

	担当者	就職委員室	連絡先
知識工学科	柳田 益三 きなきだ まさぞう	有徳館東館 YM-223	Tel:0774-65-6249, Fax:0774-65-6809 Email:js-koul@mail.doshisha.ac.jp
電気系学科	辻 幹男 つじ けんお	有徳館西館 YE-513	Tel:0774-65-6246, Fax:0774-65-6806 Email:js-kou2@mail.doshisha.ac.jp
機械系学科	御牧 拓郎 みまき たくろう	有徳館東館 YM-103	Tel:0774-65-6247, Fax:0774-65-6807 Email:js-kou3@mail.doshisha.ac.jp
化学系学科	森 安維 もり やすしげ	至心館 SC-207	Tel:0774-65-6248, Fax:0774-65-6808 Email:js-kou4@mail.doshisha.ac.jp
数理環境科学	西邸 顕達 にしちや けんたつ	報辰館 HS-207	Tel:0774-65-6250, Fax:0774-65-6250 Email:js-kou5@mail.doshisha.ac.jp

就職関連資料室: Tel:0774-65-6240, Fax:0774-65-6805  
Email:jt-shshk@mail.doshisha.ac.jp



# ひとことエッセー

## もの作りに生きて

1963年電気工学科卒 荒川 元

学生時代は体力に自信あり、登山、スキーと運動クラブ(DASC)活動に明け暮れ、ゼミの谷口先生を困らせたのでは?と思いますが、気象知識を活かし黒四ダムや鳴門海峡送電線設置工事等で学資と小遣いを稼ぎ、何とか単位を取得。早や40年弱の会社生活を過ごしました。

ご承知の如く弊社はセラミック・コンデンサ/フィルターを主力商品に、高周波/EMI 対策等各種電子部品及び回路商品等の応用商品を世界に向けて供給しております。

入社早々電力/高電圧用セラミック・コンデンサ商品の開発/設計/製造等を経験した後 FBT、高圧抵抗商品等各種の商品を担当。またセラミックの品質バラツキに文句を付けたら当時の村田昭社長から一部の窯業工程迄をも担当させられました。各種商品が利益計上都度担当を外れ、数年毎に商品や業務内容が替わる日々を過ごして来ました。仕事での迷いや不満もあり、時々母校へ出向き谷口先生等を訪問しそこで活力を得ては新商品や新しい工法、業務の仕組み等を創出させて頂きました。窯業工程の合理化も進み収益確保出来た矢先、すっかり忘れていた電気回路知識が必要な電源商品事業を担当、面狂いしましたが戸高/原田先生等からご指導や卒業生補強等のご支援を頂き売上/利益で遜色なき事業に迄成長させる事が出来る様になりました。この事業も後任に引継ぎ、再びEMI 対策部品を主とした5商品部門を担当し、これらが再び大きく育つ事を夢見て奮闘しております。

材料から完成品開発から製造、各種管理業務迄随分幅広く経験したものだと思っております。そして常に製造現場近くにいた事もあり、目標達成の喜び、失敗の哀しみ、そしてそれを乗り越えて行く“もの作りの楽しみ”を数多く味わえた幸せを感謝しております。母校の先生方をはじめその他数多くの人々から多大のご教授、ご支援を頂き今日あるものと深く感謝しております。

さて我々の周囲を見渡してみますと、今日市場では韓国・ASEAN 諸国や特に中国から衣類など～機器、設備

に至るまでもが怒涛の如く国内に流入。反対に低コスト生産を求めて中国を主に生産が移管され、国内の製造業は急速に空洞化して来ています。製造業に携わる一員として強い危機感を抱いております。同時に景気悪化のなか、多くの企業がリストラで中高年層の首切りを容易に行い、これらの人々が第二の人生として海外で活躍する機会が急激に増加。私の知人も同じ道を歩んでおられます。これらの人々の活躍もあって、上記生産国産品は品質面でも同等もしくは遜色なき処まで向上して来ており、困った事にコピー品まで出回る事態に至っております。現地の人々は“キャリアを積み、お金を稼ぎ、より豊かな生活をした”と言う目的意識が強く、知識吸収に食欲で目を輝かせて喰らいついて来ます。更に低賃金だけでなくエネルギー、輸送費用等の安さから国内で汎用品のもの作りを行っても勝ち目のない事は明白です。

一方、次の時代を担う国内の若い人々は豊かさにどっぷり漬かったまま、平等主義や規格化された教育により、創造性が失われ、既存のソフトを使用したパソコンや携帯電話に埋没しつつある現状にあります。産業の基盤である製造業が衰退する事で、彼らの”もの作りに興味を持ち、努力して自分の人生を切り開いて行く迫力”が欠け、指示待ち人間が増加しつつあるのでは?と心配しています。

今後日本は、単なる製造業から先端技術等を駆使した知的生産にシフトし、知的財産権と資本輸出で国力を維持して行かねばなりません。その基礎となる高度なもの作り技術・技能が培われる場が無くなってしまふ事を懸念しております。とは云えこの状況を先送りする事は許されず、少しでも得意とする先端技術を切り開き、若い人々に“もの作りの楽しさ”を味わって貰い、会社内のみならずクラブの OB として後輩達に継承して行く努力をして行きたいと考えております。

(株)村田製作所 デバイス事業部 事業部長  
取締役 執行役員

# OB会あれこれ

## 化学系関東 OB 会の紹介

1962年工業化学科卒 大平 和彦

本 DoKo ネット一同志社大学工学部同窓会報一には、過去に第 2 号で故重政恒夫氏(60 年工化修卒)が、第 3 号では当代表幹事でありました鈴木淳平氏(61 年工化卒、日本特殊塗料(株)会長)が投稿され、化学系関東 OB 会の存在が広く同志社大学工学部 OB の皆様の目に留まる所となりました。

先輩達の努力と情熱で 97 年 9 月に正式発足したこの会も、63 年頃開催された第 1 回から数え今年度(2001 年)は、お陰様で第 18 回目を開催するまでに至りました。今年度も日本化学会第 80 秋季年会が千葉大学で開催される時期に合わせて、9 月 21 日(金)18:30 アルカディア市ヶ谷私学会館で、盛大に開催することができました。大学からは、古川先生、山下(正通)先生、上野先生、太田先生、加納先生、小寺先生、田坂先生そして塚越先生(順不同)の 8 名の先生方においていただき、先生方の最新の研究話や大学事情などの話を楽しく聞かせていただきました。いわゆる産学共同が花開く場面もあちらこちらであったようです。また、1 期生から卒業まもない OB まで総勢 43 名が集い、昔を懐かしみながら旧交を温める素晴らしい場面も見られました。今年は例年になく多くの方々に参加頂きました。初めて参加された方も多かったことが、本会の PR(横展開)や発展に繋がったのでは、との印象を深く持ちました。しかし、当日の OB 会の運営で時間的余裕が少なくなってしまったことは残念でしたが、その後の 2 次会に足を運ばれるグループもあり、さらに親交を深められたものと確信しています。

この機会を借りましてご出席いただきました先生方そして OB の皆様に感謝申し上げます。来年度(2002 年)以降も、継続して多くの方々におこしいただくために、会費のみならず企画などで工夫を凝らす必要があると痛感しています。OB 皆さんのお力添えを宜しくお願いいたします。最後になりますが、今年は代表幹事改選の時期でも

ありました。前代表幹事鈴木淳平氏から私<大平和彦(62 年工化卒、(法)日本塗料工業会専務理事\*)>にバトンが渡され、今までご尽力された約 15 名の幹事役の方々との運営にあたっております。この機会を借りまして化学系関東 OB 会を支えていただいている方々にお礼を申し上げるとともに、さらに発展させるべく工学部同窓会のご支援をお願いする次第です。

\*連絡先:大平和彦 03-5420-5265, ohira@toryo.or.jp

事務:森田薫 0463-23-2102, moritak@als.kansai.ac.jp

(71 年工化卒、関西ペイント(株)勤務)

今出川キャンパス・クラーク記念館は、ドイツ・ネオ・ゴシックを貴重とし、同志社大学を象徴する建築物として長年親しまれています。

明治 26 年(1893 年)竣工で、100 年以上の月日が経過し老朽化が進んだため、2001 年 5 月から 9 月下旬まで応急処置を行い、その後 2004 年から 6~7 年をかけて全面補修工事を行う予定です。(応急処置のための工事終了後も、ネットなどがかぶった状態となります。)

この間、その姿をホームページ上でご覧になることができます。また、壁紙やカレツジソングの着メロもダウンロードできます。

<http://www.doshisha.ac.jp/daigaku/clarke/>

## JABEE 試行審査を受けて

電気工学科・電子工学科

2001 年度教務主任

長岡 直人

卒業生の皆様は、「日本技術者教育認定制度」を御存知でしょうか？これは、大学などで実施されている技術者教育が、社会の要求水準を満たしているかどうかを日本技術者教育認定機構 (JABEE:<http://www.jabee.org/>) が評価・認定する制度です。この制度は近年設けられたもので、我が同志社大学工学部は、電気系・機械系・化学系の各学科が 2001 年度に試行審査を受けました。今後更に準備を重ね、本審査を受けるべく準備を進めています。

この審査基準は、「基準 1 学習・教育目標」について以下の項目が設定されています。

- (1) 以下 (a)～(h)の知識・能力を全て網羅した具体的な学習・教育目標が設定され公開されていること。(a)地球学的視点から多面的に考察する、(b)技術者倫理、(c)数学・自然科学・情報技術に関する知識、(d)専門技術に関する知識と問題解決能力、(e)社会の要求を満たすデザイン能力、(f)日本語による論理的な記述力・口頭発表力・討議能力と国際的なコミュニケーション基礎能力、(g)自主的・継続的に学習できる能力、(h)制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (2)当該高等教育機関の伝統資源卒業生の活躍分野などを考慮して特色を出す努力がなされていること。
- (3)学習・教育目標が社会の要求や学生の要望を考慮して決定されていること。

これに加え、「基準 2 学習・教育の量」・「基準 3 教育手段」・「基準 4 教育環境」・「基準 5 学習・教育目標達成度の評価と証明」・「基準 6 教育改善」も審査対象となります。さらに、専門別基準(主として基準 1-(d))については、対応する学会が主体となって設定し、JABEE による調整を経て決定されます。

左記項目は、高等教育においては当然準備されるものですが、国際的基準に照らして審査されることが特徴と言えます。

我が国の「技術士」制度が外国の技術者資格制度と整合性があると認められれば、相互承認への道が開かれます。そこで、技術士法が改正され、文部科学大臣が指定する認定教育課程(=JABEE 認定の技術者教育プログラム)の修了者は、技術者に必要な基礎教育を完了したものと見なされ、直接「修習技術者」として実務修習に入ることができます。これにより、大学における基礎教育と技術者資格との連携がなされます。すなわち JABEE が同志社大学の工学部教育を認定すれば、認定後卒業した学生は技術士第一次試験が免除されます。

では、卒業生の皆様にとって、この審査は無関係なことなのでしょうか？まず、我が国の「技術士」が、国際的に同等であると広く世界に認知されれば、今後も国内のみならず、国際舞台で技術者の活躍が容易になると考えられます。更に、これまで技術者は、「〇〇会社の技術屋さん」との認識が一般的でしたが、今後は弁護士などのように、「資格を有する専門家」としての地位が社会的に定着すると思われます。これらの事項は社会の第一線で活躍されている卒業生の皆様に大きなメリットをもたらすものと考えられます。

更に、この認定を受けるには、大学内の努力のみならず、産業界のニーズを組み入れるなど、社会との連携をとることを大学に求めています。特に、卒業生などから大学教育についての意見を求めることを認定の条件としており、同窓会はこの役割を担う重要な組織であると考えます。今後とも、同志社大学工学部教育の発展に更なるご協力をお願い申し上げます。

# 施設案内

同窓生・ご家族の皆様にご利用いただける施設をご案内致します。OB・OG会に家族旅行にご利用下さい。

## 1. 同志社びわこリトリートセンター

これまで学生のクラブ・サークル・ゼミ合宿などの施設として長年親しまれてきました小松学舎が、同志社創立125周年記念事業の一環として全面的に新築され、「キリスト教主義教育・国際交流」のための施設、「同志社びわこリトリートセンター」として2000年11月1日に生まれ変わりました。「リトリート」とは、聖会または修養会として自然の中に退き、聖書を学び、かつ祈り、神との交わりを持つことを意味しています。新施設には、礼拝堂、宿泊棟（和室・洋室等）、セミナー室の他、キャンプエリア、テニスコート、グラウンドなどがあります。施設の前方には琵琶湖国定公園を、後方に比良連峰を仰ぐ風光明媚な湖北の地にあります。同窓生の皆様にも各種施設がご利用いただけます。

■所在地:滋賀県滋賀郡志賀町大字北小松 179

JR 湖西線「北小松」下車、徒歩20分

■申込先(2001年10月から申し込み先変更)

使用日の6か月前の月初め(1日)から1週間前までにお申し込み下さい。

同志社びわこリトリートセンター TEL:077-596-0008

■同窓並びにその家宿泊施設使用料(1人1泊)

和室・キャビン:¥4,500, テントサイト:¥1,500

洋室:¥5,000(2名1室), ¥6,500(1名1室)

■セミナー室・礼拝堂使用料(1室あたり)

室区分	9時 ～12時	13時 ～17時	17時 ～21時	終日
セミナー室	¥2,000 ～4,000	¥3,000 ～5,000	¥3,000 ～5,000	¥7,000 ～13,000
礼拝堂	¥8,000	¥10,000	¥10,000	¥26,000

■テニスコート使用料(1面)

9-13時:¥4,000, 13-17時:¥4,000, 9時-17時:¥7,000

■食事メニュー

朝食:¥500, 昼食: ¥300～¥700 チェックイン時に予約

夕食:¥1,300 ～ 申し込み時に予約

## 2. 晩晴草堂

富士五湖の一つ、山中湖畔に晩晴草堂があります。徳富蘇峰先生ゆかりの建物を同志社が寄贈を受け、学生・教職員などの厚生施設として利用しているものです。晩晴草堂は熱海市伊豆山において蘇峰先生が晩年を過ごされた遺邸として、とても由緒ある建物です。

■所在地:山梨県南都留郡山中湖村旭日丘

TEL:(0555)62-0336・0086

JR 新幹線「三島」または「熱海」下車もしくはJR 御殿場線で「御殿場」下車、富士急バスで「御殿場」経由「旭日丘」下車。晩晴草堂まで徒歩5分。

■申込先 6ヵ月～1週間前

同志社大学施設部管財課 TEL:075-251-3165

## 3. 同志社チャペル

重要文化財のチャペルで結婚式ができます。挙式者のどちらかが同志社大学の卒業生で、使用の意義を理解してもらえらる牧師に司式の依頼が必要です。使用料は10万円。6か月前から予約を受付けています。

■申込先

同志社校友会 TEL:075-251-4393

## 4. 今出川キャンパス ハリス理化学館の施設

今出川キャンパス・ハリス理化学館1階に卒業生のためのラウンジがあります。母校へお立ち寄りのときにはご休息に、お待ち合わせなどにお気軽にご利用いただけます。ラウンジではビデオ「新島襄の生涯」(15分)、卒業アルバムなどを用意しています。また、Neeshima Room では同志社設立の経緯をご覧いただけます。

・卒業生ラウンジ ハリス理化学館 1F

(平日・日曜日) 9:30～17:00, (土曜)9:30～12:00

ただし、祝日は休館

・Neeshima Room 「ハリス理化学校記念室」

新島先生ゆかりの資料による企画展を開催しています。

ハリス理化学館 2F 10:00～17:00

連絡先:同志社大学企画部企画室校友課

TEL:075-251-3009, FAX:075-251-3097

E-mail:ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

## 同志社大学工学部同窓会会則

### 総則

第1条 本会は同志社大学工学部同窓会(以下同窓会と略す)と称する。

第2条 本会は会員相互の親睦を厚くし、同窓生と同志社大学工学部の双方の発展に貢献することを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。

1. 研究会、講演会
2. 同窓会報および名簿の発行
3. 同窓生懇親会(リユニオン等)の開催
4. その他必要と認められる事項

第4条 本会事務局の設置場所は、同窓会幹事会において決める。

### 会員

第5条 本会の会員は、同志社大学工学部(大学院および旧工業専門学校を含む)卒業生、学生として在籍した者、工学部の現教職員、および元教職員とする。正会員の年会費は2千円とする。

### 役員と幹事会

第6条 本会に会長1名を置く。会長は総会において選出する。また本会に幹事長を置く。幹事長は幹事会において選任する。

第7条 本会には、各学科において互選された各学科数名の学内幹事および数名の学外幹事、会計監査を行う監事2名を置く。

第8条 会長、幹事、監事の任期は、原則として2年とし、再任を妨げない。幹事は、自己の都合により幹事を辞任する場合、幹事会に後任者を推薦できるものとする。

第9条 幹事会は、会長1名と幹事より構成し、幹事長もしくは会長が、幹事会を召集する。

第10条 幹事会は毎年度の事業計画書・事業報告書(予算、決算報告を含む)を作成し、事業を行う。

第11条 幹事会議事録、事業計画書、事業報告書は本会事務局に保管する。

### 総会

第12条 本会は原則として年1回総会を開催する。

第13条 総会は会長がこれを召集し、議長を務める。

第14条 次の事項は総会に報告する。

1. 前年度決算・事業報告
2. 当該年度の予算・事業計画
3. その他幹事会で必要と認められた事項

第15条 総会の議事録は本会事務局に保管する。

### 付則

1. 本会の会則の変更は幹事会で起案し、総会で承認を得て、工学会へ報告する。

1999年11月27日改正

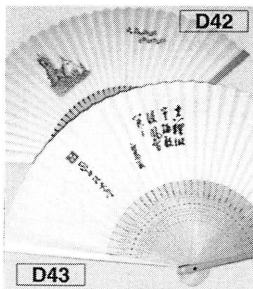
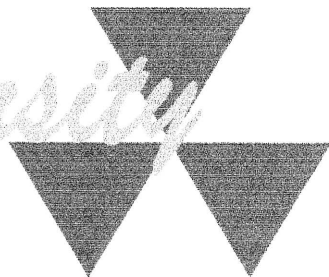
# 幹事会

## 工学部同窓会幹事

	氏名	卒業年	所属	
会長	坂口 一彦		同志社大学工学部	
学外幹事	電気系	上西 勝也	S37 電気	園田計器工業(株)
		藤原 義博	S39 電気	松下電器産業(株)
		橋詰 源治	S43 電気	(株)橋詰気工業所
	機械系	小林 正義	S45 機械, S47 修機械	(株)堀場製作所
		大久保 稔	S56 機械, S58 修機械	ヤンマーディーゼル(株)
		福永 浩	S59 機械, S61 修機械	MMCコベルコツール(株)
		瀧 高弘	S62 機械	三菱自動車工業(株)
		篠木 俊雄	S61 機械 II, S63 修機械	三菱電機(株)
		深見 洋司	H1 機械 II, H3 修機械	川崎重工業(株)
		化学系	中山 仁郎	S39 工化, S41 修工化
	近持 隆		S41 工化	パクセルインターナショナル(株)
	堀内 健一		S49 工化	ニッタ(株)
	湯浅 智		S53 工化, S55 修工化	日新電機(株)
	中村 清己		S55 化工, S58 修工化	宝塚市立安倉中学校
	学内幹事 (幹事長)	知 織	芳賀 博英	hhaga@mail.doshisha.ac.jp
電気系 大鉢 忠			tohachi@mail.doshisha.ac.jp	
機械系		長岡 直人	nnagaoka@mail.doshisha.ac.jp	
		藤井 透	tfujii@mail.doshisha.ac.jp	
化学系		青山 栄一	eaoyama@mail.doshisha.ac.jp	
		塚越 一彦	ktsukago@mail.doshisha.ac.jp	
田中 義文	yotanaka@mail.doshisha.ac.jp			
監事	(前会長)	加納 航治	同志社大学工学部	
	(前幹事)	米澤 徹	S40 機械, 博士 ヤンマーディーゼル(株)	
前幹事	電気系	中野 恵二	S55 電子	富士通テン(株)
		大田 建久		同志社大学工学部
		戸高 敏之		同志社大学工学部
	機械系	汐見 知行	S45 機械 II	三菱自動車工業(株)
		辻 克巳	S45 機械 II	住友電気工業(株)
		中村 成男	S42 機械	(株)堀場製作所
		田中 達也	S58 機械 II, S60 修機械	(株)神戸製鋼所
		千田 二郎		同志社大学工学部
	化学系	平田 勝哉		同志社大学工学部
		東城 哲朗	S51 工化, S53 修工化, 博士	東洋炭素(株)
		山口 修		同志社大学工学部

# Doshisha University

## いつまでもカタチに残る 同志社オリジナルグッズ



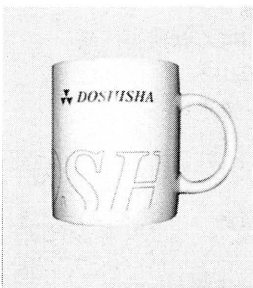
D42 クラーク館 ¥1,200  
D43 寒梅の詩 ¥1,500



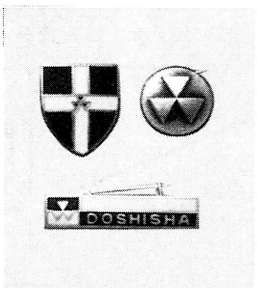
D44 うちわ ¥120



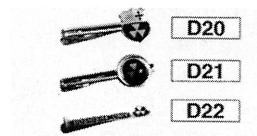
D18 せんべい ¥572



D17 マグカップ ¥700



D60 バッジ(3個) ¥500



D20

D21

D22



D19 牛革ベルト 組価2500円



ネクタイ各種

D23

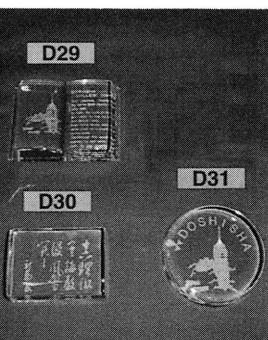
D24 D25

D26

- |     |           |        |     |           |        |
|-----|-----------|--------|-----|-----------|--------|
| D20 | タイピンゴールド  | ¥2,500 | D23 | ネクタイ シルバー | ¥3,800 |
| D21 | タイピン七宝    | ¥1,000 | D24 | ネクタイ クレスト | ¥3,800 |
| D22 | タイピンUniv. | ¥500   | D25 | ネクタイ エンジ  | ¥3,800 |
|     |           |        | D26 | ネクタイ グリーン | ¥3,800 |



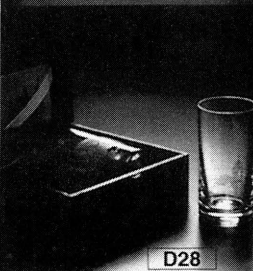
D27



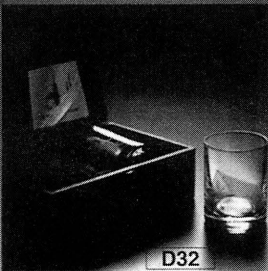
D29

D30

D31



D28



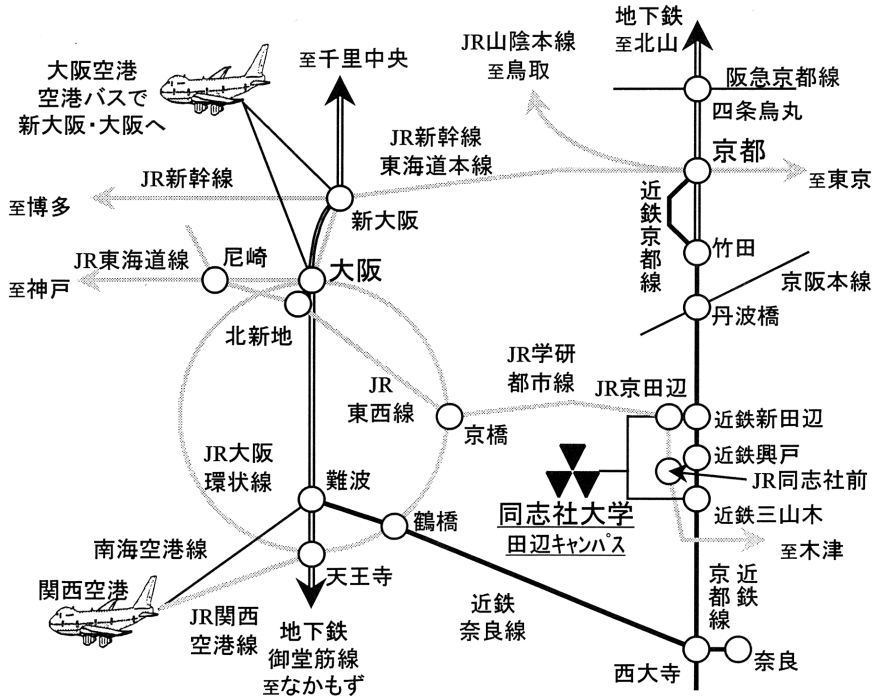
D32

このほかにも商品がございます。  
詳しいお問い合わせ、商品のお申込は  
下記までお願いいたします。  
同志社生活協同組合 京田辺購買部  
〒610-0321  
京田辺市多々羅都谷1-3  
tel0774-65-8375

- |     |                 |        |
|-----|-----------------|--------|
| D27 | ワイングラスセット       | ¥3,800 |
| D28 | タンブラーグラスセット     | ¥4,500 |
| D29 | ペーパーウェイト 本型クラーク | ¥3,500 |
| D30 | ペーパーウェイト 角型寒梅の詩 | ¥2,300 |
| D31 | ペーパーウェイト 丸型クラーク | ¥2,300 |
| D32 | ロックグラスセット       | ¥4,500 |

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>

工学部同窓会ホームページアドレス <http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>



## 同志社大学 田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3

工学部・工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは  
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。  
同窓会事務局(大角)あてご自由に連絡、投稿下さい。

2002年3月21日発行

同志社大学工学部同窓会

発行者:坂口 一彦

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学工学部内

工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷:(有)木村桂文社 Tel:075-381-9784 Fax:075-381-1510